



湖山池は、面積6.8km²、湖岸延長18km、平均水深2.8mの汽水の海跡湖です。以前は、縄文海進後の海退によって潟湖となったと考えられていましたが、最近の研究では中世の頃までは直接日本海とつながる内湾であったことが分かってきました。そのような環境で暮らした人々の様子が、湖山池周辺の古墳や遺跡からうかがえます。

展望台からは湖山砂丘と日本海が一望！

湖山池には現在5つの島があります。その中で、最大の島が青島です。島の周囲には遊歩道があり、たくさんの桜の木が植えられています。また、展望台からは、湖山砂丘と日本海を望むことができ、かつて内湾であったことがうなずけます。



湖山池に浮かぶ青島



青島展望台から見た日本海

青島周回コース

- スタート ※時間は徒歩
- ①湖山池情報プラザ 20分 約900m
 - ②青島展望台 16分 約800m
 - ③藤島 11分 約600m
 - ④石がまの跡 8分 約400m
 - ①湖山池情報プラザ
- 総移動時間約55分
全行程約3km

クイズ1

青島で発見された勾玉は、その特徴的な形状から何勾玉と呼ばれているのでしょうか。(答えは裏面を見てね！)

①湖山池情報プラザ

湖山池

④布勢天神山城跡

湖山池ナチュラルガーデン

湖山池オアシスパーク

ポットホール群

湖山池の水位が低い時に、見ることができます。

青島ー布勢接続ルート

高住公園

猫島を正面に見ることができます。春には桜が咲いて美しい場所です。

スタート

湖山池で観察できる主な野鳥

＜通年＞ カイツブリ、カルガモ、トビ、ミサゴ、カワセミ
 ＜夏＞ オオヨシキリ、コチドリなどのシギ・チドリ類
 ＜秋＞ カムリカイツブリ、カワウ、マガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、オオバン
 ＜観察できるとラッキー！＞ ホオジロガモ、ミコアイサ、オオワシ、オオジロワシ

お弁当食べるならココ！

お弁当食べるならココ！

お弁当食べるならココ！

お弁当食べるならココ！

美しい自然を守るため、石や植物は観察するだけにしましょう。危険な場所や立ち入り禁止の場所には入らないようにしてください。持って帰るのは楽しい思い出と写真、そして地元のおみやげ!!

- ### 凡例
- トイレ
 - 田
 - 畑
 - 青島周回コース
 - 布勢歴史コース
 - 足元注意
 - 交通安全確認

クイズ2

日吉神社の境内には、ある動物の像が2体置かれています。その動物は何でしょうか。(答えは裏面を見てね！)

布勢周回コース

- スタート ※時間は徒歩
- ①ふれあい広場 20分 約1km
 - ②日吉神社 4分 約200m
 - ③布勢古墳 26分 約1.3km
 - ④布勢天神山城跡 35分 約2.2km
 - ①ふれあい広場
- 総移動時間約1時間25分
全行程約5km

●青島周回コース

①湖山池情報プラザ



湖山池の四季の魅力を発信する拠点施設。その自然をいかし各種体験が楽しめます。湖山池の情報・文化の発信と湖山池学習の場所として親しまれています。
(問)0857-31-2900/10～16時/水曜休館
http://blog.goo.ne.jp/koyamaike_jp

②青島展望台



青島は、湖山池で最も大きな島です。橋が架けられる以前は、舟で行き来をし、畑として活用されていました。その山頂にある展望台からは、湖山砂丘と日本海を望むことができ、湖山池がかつて内湾で砂州が発達して潟湖となったことを想像させます。

③藤島



湖山池には、かつて、青島、津生島、団子島、猫島、鳥ヶ島、飯島、藤島の7つの島があったと言われました。飯島は布勢の陸地となり、藤島は青島とつながって、現在は5つの島となっています。

④石がまの跡



石がまは湖底にフナの通路を確保して積み上げた石積みです。この石がまを使って行われる漁が石がま漁で、湖山池西岸の三津地域に伝わっています。多いときは80基近くあった石がまは、現在使用できるものは4基のみです。(※ジオコラム2参照)

おすすめ:猫島



猫島には、琵琶湖の竹生島の弁天宮を分社してまつてあります。湖山長者の飼っていた猫にまつわる伝説『湖山の猫薬師』と『猫島異聞』が伝わっています。

●布勢歴史コース

①ふれあい広場



芝生広場やゲートボール場が整備され、周囲には47都道府県の木が植えられています。樹木学習コースが設定され、クイズをとおして都道府県の木について学習することができます。

②日吉神社



卯山の山腹にある神社で、山名時氏が因幡の守護職の時(1354年)に近江(滋賀県)の坂本から日吉神社を勧請してまつたのが始まりとされています。現在も布勢の山王さんとして親しまれており、境内には子どもの守り神として、猿がまつられています。

③布勢古墳



日吉神社の裏の丘陵にある前方後円墳(全長59m)です。土師器や須恵器片、円筒埴輪片が出土したことから、古墳時代後期に築造された因幡地方の有力首長の墓と考えられています。規模も大きく、墳丘の保存状態も良好であることから、昭和49年(1974)に国の史跡に指定されました。

④布勢天神山城跡



1466年に、因幡の山名勝豊が守護所として築いたとされています。久松山に本拠を移すまでの約100年間、因幡の政治の中心でした。江戸時代の古地図には、湖山川から水を引いた堀が張り巡らされていた様子が描かれています。

湖山長者伝説

池にまつわる伝説は多く残されていますが、その中で最も有名な伝説が「湖山長者」の伝説です。

「むかし、この辺りに裕福な長者が住んでおり、「湖山長者」と呼ばれていた。長者の屋敷では、1日で田植えを終える慣わしであった。ある年、田植えをするために早乙女(さおとめ)を集めて植えさせたところ、猿に気を取られて1日で植えることができなかった。長者は残念に思い、黄金の扇子をもってきて西の山に沈もうとしている太陽をさし招いた。すると、沈みかけていた太陽は戻り田植えを終えることができた。次の日、長者が田んぼを見てみると、大きな池になっていた。」

ジオコラム①

湖山池の形成

湖山池は、砂丘が発達して内湾が日本海と切り離されてできた潟湖です。約20万年～15万年前は、鳥取平野は小島が点在する内湾(古鳥取湾)でした。15万年～10万年前には、内湾に砂礫が堆積し古砂丘が形成されました。

その後、地球の寒冷化により海面が低下し、海岸線がはるか沖に後退しますが、約6千年前の縄文時代には地球が温暖化して海水面が上昇し、再び内湾になりました。この内湾は引き続き堆積によって湖山池付近を残して干上がり鳥取平野が形成されました。湖山池は中世頃までは日本海とつながっていましたが、湖山砂丘の成長でつながりが絶たれ現在のような姿になりました。



■:水域 ■:山地 ■:河川および平野

ジオコラム②

石がま漁

湖山池では、全国でも例を見ない「石がま漁」というめずらしい漁法が伝わっています。「石がま」とは湖底にフナの通路を確保して積み上げた石積みです。石がま漁は1月末ごろに1日かけて行われる冬の漁で、石がまの上から突き棒で隙間を突き、胴函という捕獲装置にフナを追い込んでいきます。

この漁は、江戸時代に農民の副業として行われたといわれています。この石がまは、多いときは80基近くありましたが、現存している石がまは、湖山池西岸の三津地区にある4基だけです。

クイズの答え

①:子持勾玉(こもちまがたま) ②:猿



石がま漁の様子